

プロジェクト6 農村資源を生かした地域の創生

1 目的

地方創生の鍵となる農村の活力向上を図るため、農産物直売所や農村レストラン等の交流拠点施設の機能強化や地域資源を生かした交流人口の拡大、多様な主体の参画による農村環境保全活動等の活発化を進めます。

2 目標・実績

指標	単位	計画時	実績				目標	R2目安値に対する割合
			H28	H29	H30	R1	R2	
交流拠点施設の利用者数 ※目安値下段の():見直し前の目安値	万人	1,688 (H26)	1,720	1,740	1,760	2,000 (1,780)	2,100 (1,800)	93%
		実績	1,772 (H27)	1,876 (H28)	1,950 (H29)	1,968 (H30)	1,954 (R1)	
農産物直売所等に複合的機能*を備えた施設数 ※体験、加工、配食、集荷など	施設	8 (H26)	12	14	16	18	20	90%
		実績	13	14	16	17	18	
地域と企業による協働活動の取組数	件	5 (H26)	7	9	11	13	15	73%
		実績	4	6	9	9	11	

3 5年間の主な取組と成果

(1)小さな拠点づくりの推進

農産物直売所や農村レストラン等での集荷や宅配・配食などサービス機能の強化や、農業・農村体験機能の強化など、地域住民や都市住民のニーズに対応できる小さな拠点づくりを推進します。

▶高齢農業者向けの集荷や宅配サービスへの取組促進

- ・高齢農業者向けの集荷や宅配サービスへの取組を推進するため、課題の分析や改善に取り組み、アドバイザー派遣や農産物の集荷実証試験等を支援

▶人材の活用支援や経営アドバイザー等の派遣

- ・農産物直売所のニーズ調査・分析や法人化に向けた勉強会等により、組織体制の強化に向けた取組を支援

▶交流拠点施設における体験機能や加工機能等の強化

- ・新商品の開発や加工品の充実を図るなど、交流拠点施設に新たな機能を付加する取組を支援

(2)グリーン・ツーリズムによる交流人口の拡大

都市住民や外国人観光客への情報発信や農村資源を活用した新たなビジネス展開により、農村地域における交流人口の拡大を図ります。

▶情報発信力の強化

- ・「季節を楽しむ！とちぎの農村めぐり」オリジナルキャラクター(村野たすき・めぐ兄妹)の連載漫画で農村地域の魅力を紹介(全6話)

- ・季節ごとの農村地域のPR動画を作成しYouTubeやSNSで配信
- ・地域間の回遊促進のための「農村わくわくスマホラリー(デジタルスタンプラリー)」を実施
- ・特設情報サイトを構築し、都市農村交流施設の感染防止対策情報や当該施設の周遊ルートを掲載するとともに、周遊ルートレビュー投稿キャンペーンを実施
- ・季節ごとの特集ホームページやインスタグラム、メールマガジンの配信等を通じて、地域の特産物や農産物、イベント等を情報発信
- ・業者向けグリーン・ツーリズムのPR冊子を作成

▶農業体験プログラム等による滞在型交流の促進

- ・農業高校生及び県農業大学校学生を対象にした「ふるさと発見 グリーン・ツーリズム入門塾」を開催
- ・平成30年度に、農村振興課内に滞在型グリーン・ツーリズム相談窓口を開設し、農家民宿の開業に関する相談や体験メニューの開発支援等を実施
- ・平成29年度から令和元年度にかけて、グリーン・ツーリズムコーディネーター養成講座を開催(計71名受講)
- ・養成講座の卒業生が企画・運営したモデルツアーを実施(3件)



農業体験の様子(市貝町)

▶インバウンド需要への対応

- ・訪日外国人に対する県産農産物需要拡大のため、県内観光農園の予約や海外宅配の申込みが可能なシステムを運用
- ・なしやいちご等の宅配商品を用いた試食会やオンラインクッキング教室等を実施
- ・東武日光駅前にいちごの特設ブースを開設
- ・海外旅行エージェント向けにいちごの産地ツアーを実施

(3)田園回帰を促えた農村地域の活力の増大

中山間地域等において、農村環境保全に向けた都市住民や企業との協働活動の定着・拡大を推進するとともに、農に関連した就業を促進し、都市住民の定住につなげていきます。

▶リーダーの育成

- ・中山間地域の地域活性化を図るため、交流拠点施設を中心に、農村地域や地域農産物等の地域資源の魅力を効果的に情報発信ができる、即戦力となる人材を育成(H28～R2、延べ110名受講)



夢大地応援団の活動の様子

▶協働活動の促進

- ・中山間地域と地域貢献への関心が高い企業による協働活動に向けた取組を支援(H28～R2、地域と企業による協働活動の取組数(累計)39件)
- ・中山間地域において、地域住民と都市住民等の協働によるボランティア活動を推進(H28～R2、延べ1,582名参加)

4 現状の主な課題と対応策

(1)小さな拠点づくりの推進

- ・地域において集荷や宅配のニーズが異なるため、引き続き地域の実情に応じて、高齢農業者を対象とした農産物集荷や宅配サービスの取組促進に向けた支援を行っていきます。

- ・農産物直売所への出荷者数の低迷等により、持続的な経営に係る課題を抱えるため、経営アドバイザーや専門家の派遣など運営体制の強化に向けた支援を行っていきます。

(2)グリーン・ツーリズムによる交流人口の拡大

- ・交流人口の更なる拡大に向けた情報発信を強化するため、オリジナルキャラクターを活用したPRアニメ動画の作成、クイズ機能を持たせた農村わくわくスマホラリーの実施など、グリーン・ツーリズムに係る情報の発信の充実を図ります。
- ・グリーン・ツーリズムに取り組む人材の更なる確保・育成を図るため、入門塾の対象を、これまでの高校生等に加え、大学生やグリーン・ツーリズムに関心のある一般社会人等にまで拡充します。
- ・グリーン・ツーリズム実践者等がビジネスとして持続的に活動できる組織となるよう、関係者間の活動内容等を共有できる専用サイトを開設するなど、ネットワーク機能の更なる強化を図ります。
- ・コロナ禍により厳しい渡航制限が行われているため、コロナ収束を見据えて、観光農園及び海外宅配商品の魅力を現地消費者へ継続的に情報発信していきます。

(3)田園回帰を捉えた農村地域の活力の増大

- ・人口減少と高齢化が進行し、集落機能が低下している中山間地域の主体的な活動を促進するため、組織の活性化や地域資源の情報発信の強化を担う人材の育成を行っていきます。
- ・集落機能が低下する中山間地域において、中山間地域の主体的な活動を促進するとともに、外部人材を活用した農地の保全活動や地域づくりを支援していきます。

事例 農村誘客プロモーション「季節を楽しむ！とちぎの農村めぐり2020」の取組

農村地域の魅力をWebサイトやSNS等を活用して発信する農村誘客プロモーション「季節を楽しむ！とちぎの農村めぐり」を令和元年度から実施しています。

令和2年度は、新たに季節ごとの農村のPR動画を作成し、春編及び夏編は都会の親子が次第に栃木の農村地域のファンになっていくストーリー、秋編及び冬編は都会のカメラ女子が様々な体験をしながら癒やされるストーリーとしました。(YouTubeでの総再生回数は約19万回。)

これらのPR動画をYouTube等で広告配信したことにより、農村のおすすめスポットやイベントなどを掲載するWebサイトのPV(ページビュー数)が昨年度に比べ約2倍(111,596ページ/12月21日時点)に増加するなど情報の発信力が高まり、より多くの都市住民等にとちぎの農村の魅力を届けることができました。



とちぎの農村めぐりPR動画【春編】



とちぎの農村めぐりPR動画【冬編】